

// 2009年6月20日（土）～21日（日）開講 //

阿賀野川のこと、新潟水俣病のこと、みんなで語り明かしませんか！

# 阿賀野川哲学塾

新潟水俣病は6月12日で正式発表から44年を迎えます。いまだ解決しない新潟水俣病は豊かな自然の恵みを持つ阿賀野川流域で発生した公害です。

なぜ、新潟水俣病は発生したのか！人間と自然との共生は出来るのか！二度と悲惨な公害を繰り返さないために、みんなで語り明かしませんか！！

環境と人間のふれあい館（新潟水俣病資料館）では、「三人委員会哲学塾」による阿賀野川哲学塾を開校します。

ぜひ、この機会にご参加ください。

## プ ロ グ ラ ム

【1日目：6月20日（土） 13:30開演】

13:30～17:00

◎紙芝居「草倉銅山物語」 演者：グループ“こっこ”

◎新潟水俣病患者による「語り部」口演

◎大円卓会議（公開討論会）

- ・「自然と共生することの意味 -映画『阿賀に生きる』に学ぶ-」 講師：大熊孝
- ・「新潟水俣病から育てる共助と自治の流域社会」 講師：関礼子
- ・「新潟水俣病問題から立ち上げる環境論理 -人と自然のかかわり再考-」 講師：鬼頭秀一
- ・「資本主義と自然」 講師：内山節

【2日目：6月21日（日） 12:00閉会】

9:00～12:00 環境と人間のふれあい館見学と徹底討論

※第1日目の19:00から、三人委員会哲学塾主催の「夕食後の徹底討論」が予定されています。

○ 主催：新潟県立環境と人間のふれあい館－新潟水俣病資料館－

※本事業は「阿賀野川え～とこだプロジェクト」（※阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業）とも連携しています。

## 申 込 み 先

◎ 定員・申込期限 50名先着順。5月20日（水）までにお申し込みください。

◎ 受講料 無料 { 但し、夕食・宿泊をお申込みの方は自己負担となります。また、夕食及び宿泊施設は菱風荘（ふれあい館隣）の予定です。 }

◎ 会場・申込先

環境と人間のふれあい館-新潟水俣病資料館-

〒950-3324 新潟市北区前新田字新々田乙364-7

TEL025-387-1450 FAX025-387-1451

<http://www.fureaikan.net/>

E-mail : [ngt040252@pref.niigata.lg.jp](mailto:ngt040252@pref.niigata.lg.jp)

講師については  
裏面をご覧ください！

## 講 師 紹 介

**大熊 孝(おおくま たかし)**  
新潟大学名誉教授／工学博士

NPO法人新潟水辺の会会長。専門は河川工学、土木史。自然と人間の関係がどうあればいいのかを、川を通して研究しており、川の自然環境を守るとともに、治水・利水のあり方を地域住民の立場を尊重しながら考察している。著書に、『利根川治水の変遷と水害』（東京大学出版会）など



**関 礼子(せき れいこ)**  
立教大学教授／環境社会学・地域環境論

立教大学教授／環境社会学・地域環境論  
開発と自然保護、新潟水俣病問題などに関心を持ち、フィールドに根ざした研究を行っている。著書に『新潟水俣病をめぐる制度・表象・地域』（東信堂）、『コモンズをささえるしくみ』（共著、新曜社）など



**鬼頭 秀一(きとう しゅういち)**  
東京大学教授／環境倫理学・科学技術社会論

東京大学大学院理学系研究科博士課程（科学史・科学基礎論）単位取得退学。現場から立ち上げる環境倫理学を形にしつつある。著書に『自然保護を問いなおすー環境倫理とネットワーク』（筑摩書房）、『環境の豊かさをもとめてー理念と運動』（昭和堂）など



**内山 節(うちやま たかし)**  
哲学者

NPO法人「森づくりフォーラム」代表理事。群馬県上野村の半村民。  
存在論、労働 存在論、自然哲学、時間存在論を軸として、哲学の研究をすすめてきた。著書に『自然と人間の哲学』『子どもたちの時間』（以上岩波書店）など



### ～三人委員会哲学塾とは～

1996年秋、共通する思想傾向をもつ、内山節、大熊孝、鬼頭秀一の三人の会として生まれ、欧米の近代思想を、欧米ローカルな思想としてみながら、地域と人間の関係を軸にして、多元的な思想を創造していこうと考えています。そして相互的な関係の世界の中で、自然、人間、社会をつかむ思想潮流をつくり出したいと、榛村掛川市長の共感を得て始められました。  
(詳しくは<http://3nintetugaku.net/>)



### グループ "こっこ"

#### ～紙芝居「草倉銅山物語」～

浅川奈保子さん・板屋越由希さん・山口茉依さんの三人組（いずれも阿賀町在住）

「阿賀野川え～とこだプロジェクト」のなかで、阿賀野川の魅力を伝えようと発足。紙芝居「草倉銅山物語」の作成・講演をおこなっています。